

高校生らに教わりながら、想像した惑星の絵を描く
子どもたち(京都市左京区・京都大東一条館)



惑星の姿 想像し絵に

第4錦林小児童 守山高生らが授業

京大

守山中高(守山市)で惑星を研究する生徒たちが、宇宙や惑星について小学生に教える講座が16日、京都市左京区の京都大であった。参加した第4錦林小の児童13人が想像を巡らせ、色とりどりの惑星を描いた。

守山高SGHハビタブル研究会と同会を指導する京都大の山敷庸亮教授(地球惑星科学)の宇宙・地球環境災害研究会、地域住民のグループ「吉田コミュニティ」が開いた。初めて高校生4人が

太陽系外惑星について解説した。自転しない惑星や地球に似た惑星などがあることは分かっているが、はるか遠くであり、また見るのができないと紹介。児童たちは自分なりに惑星の環境や生き物を想像し、自由に紙に描いた。

同小5年の野々内華さん(11)は「本当の惑星の話にも驚いたし、惑星を描くのも楽しかった」、守山高2年の部長白子夏暉さん(17)は「子どもたちが楽しそうで、同じ研究をしたいと言ってくれてうれしい」と話した。(加藤華江)